



「せんせ！と急に呼ばれたのは北斎駅近くの食品売場。さてここで声がかかるわけではないのだがと思ったら、おこわ弁当売場の中でここにこの丸顔が「なつかしい！何年ぶりかしらねー！」と元気の良し笑顔いっぱい騒いでいる。「なーんだ、さっちゃんか、どうしてるかと思ったら元気そう良かったねー。」だってどこも携帯がつかないんだもの、番号変えたの、でもあえて良かった。」とデバ地下的な場所ですりすまきり盛り上がった。

ほんとうにどこに行ったのかと気持の片隅に引っかかっていた。九州女の彼女は北斎の柳ヶ瀬で、出会った頃小さいながら自分の「さち」と言う名のスナックを持っていたのだが、街全体の不況風からは逃れられずに、店を開けて、他のスナックを転々としはじめていたのだが、それも何件目かで連絡が取れなくなってしまってもう3年くらいたつ、それまでは店が変わっても北斎の知人のもとへ連絡は繋がっていたのだから、急に消えてしまったのはどうにも気になって仕方がなかったのだ。まあ、顔をあわせれば悪口や皮肉の一つ二つが飛び交うくらいなのだが、夜の、ホテルに帰る前の落ち着ける時間を提供してくれていたのだ。それにしても素顔が前より健康的に輝いてうれしかった。その後隊と寿司屋で会って「さっさ、さっちゃん与会つた。」と言ったら「え、…さちか、どこにいた。」と喜んでた。その晩はそんな話をしながらなんだか心の底が暖くなるような心地よさで、駅へ送ってもらって名古屋経由で東京に戻ってきた。

まあ山口 徳山 広島 倉敷 岡山と旅暮らしが続き、一度帰ってから、伊勢 津 四日市 桑名と仕事で歩き回っていました。毎日昼間は種別調査で、夜はホテルでコンピュータを相手にデータの整理。そして飲み屋へ出撃。その飲み屋を探すのに多少の感傷を働かせます。安くて、落ち着けて、地域臭い、たくさんする所を探すのはけっこう骨が折れるものです。そうやって見ているといろいろなことに気がつきます、山口あたりは飯屋の看板に「めしと おかず」と書いてある確率かなり高い、こっちからすれば飯があればおかずがあるのは当たり前だろーがと思うのですが、そういうことを律義に書いている所は、地域の人の精神構造の表れであるだろうと、数人の知人を思い浮かべて納得したりしています。店の奥にガラスの棚があってそこにおかずがたくさん並び、みんな勝手に取って来るというのもある。暖めなければならぬのは脇の電子レンジで温めるのだが、見ていると、女の人が一人でやってきて、何れしゃべらずに、ツーっと店の奥に入ってじっと棚を見つめて、黙ったまま、皿を取って店のおばちゃんに渡すと、おばちゃんは手慣れたもので、「はいよ。」と暖めて、ご飯をよそってあげたりしている。年配の背広を着た鼻の頭が赤いおばちゃんも肩を怒らせて棚の前でため息をつき、皿取って、軽口をたたきながら、おばちゃんに手渡している。そんな情景を一番見渡せる隅に座って、こっちは安、熱帯のお代わりをやっぱりおばちゃんに頼んでいる。そんなとき懐具合を心配しながらも、人間を見ているのは実に楽しいとしみじみ思うのです。明日からまた旅に出できます。たくさんの人を見えます。

それから、6月は名古屋の地味専門の間のノングラでの厨師仲間を捜すことが決まりました。私は6月の最初の1週間と後半1週間つめることになりそうです。あわただしいのですが、考えてみたらその前に、東京ビックサイトで講演もしなければならぬ。まあ仕方ない、何でもやってみよう、風車に突撃したドンキホーテのような心境です。

5月の「まなざし」の編集は21日です。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com